

初めは、片言の英語でなかなかなじまず、戸惑いを感じた子どもたち。しかし、研修を終え、ホストファミリーとの別れ際には、「帰りたくない」と涙を流した生徒もいました。10日間の研修でどんな心の変化があったのでしょうか。14歳の心を揺らした「思い」を探ります。



### カナダ ブリティッシュ・コロンビア州 サレー市

サレー市はバンクーバーのやや南に位置し、アメリカの国境沿いにある自然豊かで海がきれいな街。バンクーバー都市圏の一部を構成しており、住宅街が広がるベッドタウンの一つでもある。サレー市には600以上の公園があり、治安や環境も良い。また大都市に近く、他の地域に気軽に訪れることができる。人口の約6割はヨーロッパ系で占めるが、少数民族では南アジア系が最も多く、2001年統計で全人口の21.89%、次に中国系4.77%、フィリピン系2.96%と続く。日系は0.56%とごく少数。

サレー市に到着し、サリバンハイスクールでホストファミリーと対面しました。坂下もさん（本川根中）は「ホームステイ先に着いた瞬間、聞いたこともない英語が飛び交って不安になりました」と到着時の心境を話しています。同じ英語でも、学校で習うものと会話では違いがあります。ホストファミリーの話す言葉が理解できない。自分の言葉も通じない。普段とはまったく違う生活環境でホストファミリーとコミュニケーションが取

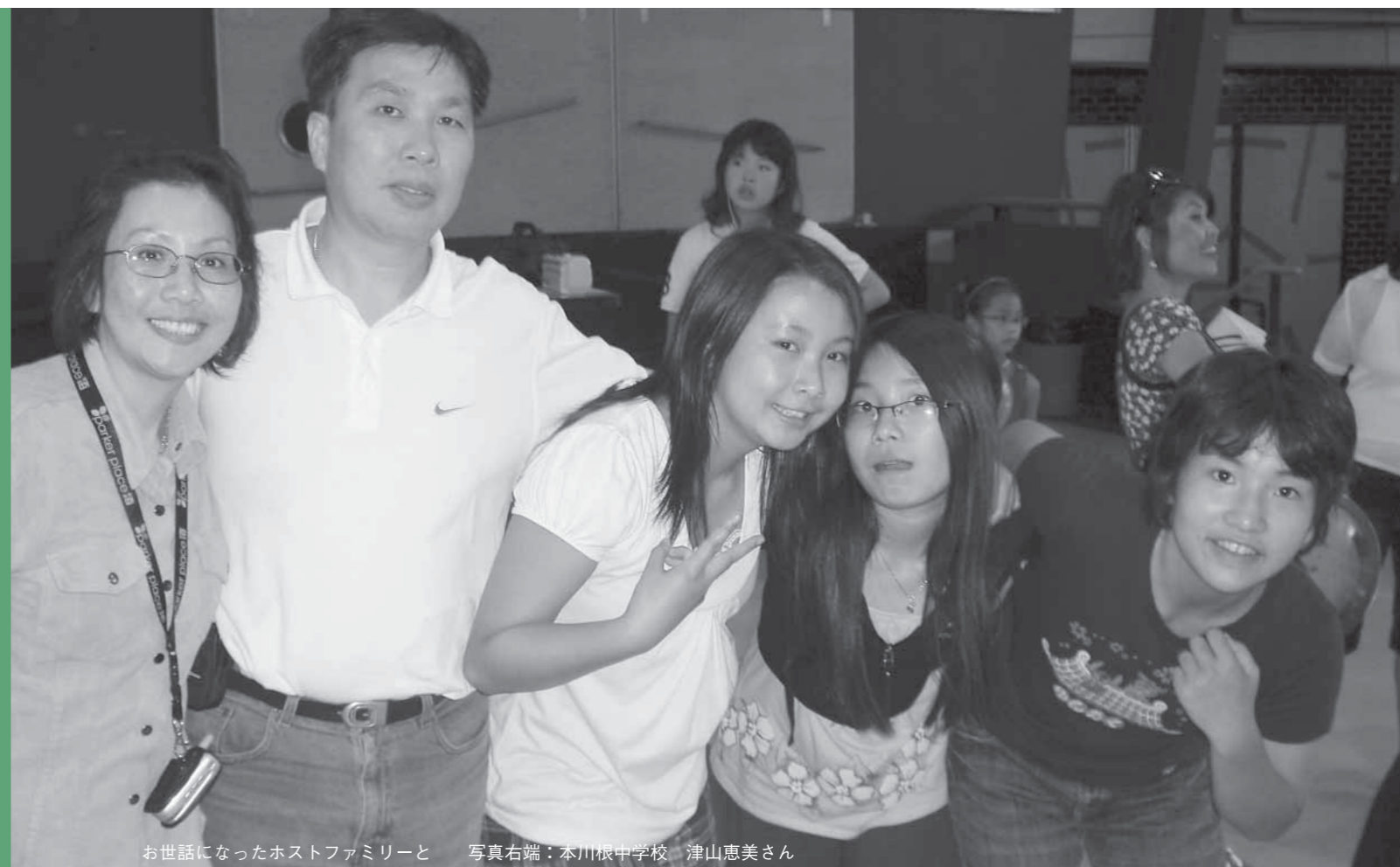


7月23日に開催された壮行会の様子。生徒・保護者が集まり、教育委員会から研修のスケジュールや、訪問中の注意点などについて説明を受けた。

### 中学生海外英語研修壮行会を実施（7月23日）

研修に先立ち開催された壮行会（会場：山村開発センター）では、子どもたちが次のように研修への決意を語りました。「ホストファミリーの人たちはどんな生活を営み、どんなことに興味を持っているのか見てきたい（勝山貴仁さん）」「カナダと日本の文化の違いを見てきたい（小平倫敬さん）」「そろばん、太鼓を持っていき、日本のことを少しでも知ってもらいたい。（鈴木里奈さん）」。これらの決意を聞いた杉山町長は「皆さんの決意を聞いて、その力強さに元気をもらいました。カナダでは、さまざまな事に挑戦してきてほしいと思います」と激励しました。

れない。このようなことから、ホームシックにかかり「早く帰りたい」と思う生徒も少なくありませんでした。  
**カナダで生まれた一つの「家族」**  
それでも生徒たちは、積極的にコミュニケーションをとり続けました。辞書を片手にかたことの英語。言葉が通じなければ、身振り手ぶり。自分の気持ちを伝えました。このような努力の結果、日を追うごとに相互の伝えたいことが、理解でき



お世話になったホストファミリーと 写真右端：本川根中学校 津山恵美さん

### 旧町時代から続く青少年育成事業

ホームステイは、ホストファミリーと呼ばれる受け入れ家庭のもとで一定期間生活することです。本町は、旧町時代から「中学生海外英語研修」をホームステイ形式で実施しています。この研修は、10代前半の感受性が豊かな時期に、異国の文化や生活習慣に触れ、語学力を磨き、国際性をはぐくむことを目的としています。本年度は7月31日に、本川根・中川根両中学校の2年生15人が、カナダへと飛び立ちました。どんな出来事が生徒たちを待っているのでしょうか。

引率した山下登志子教諭（本川根中）は言います。「日本語が使えない中で生活することは、大人でも大変なことです。家族であれば分かってくることが、ホストファミリーにきちんと話さなければ伝わらない。生徒たちのチャレンジ精神を養う良い機会です。積極的にコミュニケーションをとってほしいですね」。

### いつもと違う言葉と生活に不安が

成田空港を出発し、雲の上で日付変更線を越え、8月1日、カナダ・バンクーバー空港に降り立った生徒はこう話します。「一生懸命伝えようとすれば、必ず分かりあえるんですよね。気持ちが伝わったときの喜びは一生忘れません」。気持ちが通じ合うことで、信頼関係が生まれやすくなることで、もう一つの「家族」になったのです。

家族として過ごした時間。国境も言葉の壁も越え、充実した10日間となりました。生徒たちの心には、多くの思い出が刻まれました。研修を終え、ホストファミリーと別れる間際、涙を流して悲しんだ子がいます。抱きしめ合って別れを惜しんだ子がいます。どの子も「帰りたくない」と思っていました。「語学力を磨く」、「異なる文化や生活様式に触れる」といった研修の目的だけならば、別れを惜しんだり、涙を流すことはなかったでしょう。

当初は、「早く帰りたい」と思っていた生徒たちが、なぜ「帰りたくない」と涙を流して別れを惜しんだのでしょうか。一体どんな気持ちで、生徒たちの心を揺らしたのでしょ